

課題番号 1

基本方針：Ⅱ		課題名：イチゴの高品質生産	
対象：イチゴ生産者		計画期間：H29～R1	
		事務所名：北部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R1年度末）	
①イチゴの安定生産推進	巡回指導 販売反省会・現地検討会 葉柄窒素測定・花芽検鏡 成績検討会	プレミアムセレクト出荷数量 126箱 → 215箱	
②生物農薬の導入推進	実証圃設置・調査 巡回指導 現地検討会・講習会 地区版手引き作成	生物農薬の計画的利用者 8名 → 57名	

総合評価（コメント）

A：6名

- 生物農薬導入推進は、品種・作物横断的なテーマであるので、牽引者捜しや育成、普及などにおける課題や知恵を他課題や他センターと共有していただきたい。
- 引き続き首都圏の出荷量を増やして生産者の所得向上に期待します。
- イチゴ生産を目指す新規就農者も増えつつある状況であるので、今後もイチゴ農家が活気づくようなプロジェクトに取り組んで頂きたい。
- 奈良のイチゴは伝統があるのでプレミアムセレクトはとても良い取組だと思う。より一層の品質の向上に向け努力を期待する。
- 今後も奈良県産の古都華の品質向上をめざし、高価格販売を目指してほしい。
- 地域特性を生かし、また品種開発に時間とお金をかけたイチゴの主力品種の市場評価を上げる取り組みは奈良県農業にとって死活的に重要。目標の設定には疑問があるが今後も過程を注視したい。

普及指導計画への反映状況等

- 奈良県産「古都華」の果実品質の高位平準化および出荷量・販売単価の向上を目指して、スマート農業の導入や販売力の強化に関係機関と連携して取り組みます。また、プレミアムセレクト認証品の販売を通して古都華の品質への信頼が高まっていることから、引き続き県プレミアムセレクト制度を活用したブランド化を推進します。
- 生物農薬の導入状況、産地での害虫発生状況、化学合成農薬への抵抗性の確認、アザミウマの天敵防除方法の研究などについて、各農林振興事務所・農業研究開発センター等の関係者が集まる野菜部門の検討会で情報共有を図り、連携を行っています。引き続き、ハダニ以外の害虫も含めた総合防除体系を整えながら普及指導活動の取り組みを進めます。